



# 教会短信

2010年4月11日

No. 32

牧師 間瀬 善彦

「大切なものは、目に見えない」。サンテグジュペリー『星の王子さま』に出てくる有名な言葉です。この言葉はまったくシンプルな言葉ですが、今の閉塞した困難で厳しい時代にこそ思い出したいものです。

4月4日はイースター（復活節）でした。すでに教会ではイースター記念礼拝を行い、礼拝に参加して下さった方がたと共にイエス・キリストのご復活をお祝いいたしました。聖書の中に登場する使徒パウロは、「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です」（Iコリント 15:14）と述べています。そのように、イエスの復活がなければキリスト教もキリスト教会もなかったことでしょう。ですから、キリスト教会ではクリスマスよりもイースターの方が大切なのです。

ユダヤの指導者と民衆によってイエスは十字架につけられて死に、墓に葬られましたが、3日目に神の力によってよみがえらされました。そして、弟子たちの前に姿を現わされました。イエスの手足には十字架につけられたときの傷跡がはっきりと残されていました。「キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました」（Iコリント 15:3-6）。ですから、確かに、イエスは十字架につけられて一度死に、埋葬され、神によって復活させられたのです。

復活されたイエスは、次々に弟子たちの前に姿を現わされ、イエスを失い意気消沈していた弟子たちを励まされ、弟子たちに使命を与えられて、神のもとに戻られました。では、今イエスはどうしておられるのでしょうか。今は聖霊として働かれておられます。人間の目には見えない姿で、しかし確実におられ、わたしたちが悩み苦しみの中で助けを叫び求めるとき、わたしたちのために解決の道を備えてくださいます。「大切なものは、目に見えない」。わたしたちはこの世の富や地位など目に見えるものに心を奪われますが、大切なものこそ本当は目に見えないのではないのでしょうか。復活されたイエスを信じる心を1人でも多くの人に持ってもらいたいと思います。

## イエス様の恵みを考える年となった 2009 年

2008 年 12 月、以前勤めていた会社が移転になり、契約の終了のため辞めざるを得なくなった。折しもリーマンショックの直後であり、現在に続く不況のさなかであった。そして翌年 2009 年は試練の年となった。自己都合でない失業であったが、当初は仕事から解放された喜びもあり休んでばかりで、職探しも強気で行っていた面もあった。しかし、不況の中、職はなかなか見つからず、徐々にあせりの色が濃くなってきた。「世間体を気にしない」と口では言いながらも、外出する時にさえ周りに人がいないかを確認して出かける日々が続いた。そして夏が終わる時期になっても職が見つからないので、アルバイトをしつつ職を探す事にした。この時期が今までで一番つらかった時期であった。あるアルバイトでは、脅迫まがいの言いがかりをつけられ、怒鳴られたりした。私の発言に対して嘘をついているとまで言われたりもした。その時には、本当に不幸だと感じ、死ねば楽になれるとまで考えた。しかしそんな中でも生き続けることが出来たのは「神により頼む」という信仰があったからだ。試練な中でも、神の愛を感じることができる恵みを与えられた。そして日曜日の礼拝があり、共に祈ってくれる教会の人々の存在、またその時よく口ずさんだ讚美歌「主と共に歩む」♪…暗い世をひとりで、手探りでさまよう……その時に主の光、わが道を照らした。主と共に歩まれる、恐れなしわれには♪、が私の支えとなった。

その後、ある職場で求人者を短期で募集していることを耳にしたので、藁でもすがる思いで応募し、そして採用された。当初短期ではあったが、その後契約が長期になり待遇も大きく改善された。周りには優秀な人や素晴らしい人たちも多く、憧れ大切に思える人も現れた。仕事での責任や課題や改善すべき点を日々感じつつも、すべてがよき方向に導かれているように思える。

「主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない」(申命 31:8)、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」(第一コリント 10:13)という聖書の言葉に励まされた。そして、その時不幸だと思っていた時間は、後になって思えば、神から与えられた訓練の時とを感じるようになった。まだ課題や試練はこれからも多くあると思うが、2009 年は自分の信仰を考える上で欠かせない年であったと思うし、より恵みを感謝できるようになった年だったと思う。

## 夕暮れには涙が宿っても、 朝明けには喜びの叫びがある。

詩編30章5節

何か失敗したときや、とても悲しいことがあったとき、寝床に入っても眠れないことってあります。もう二度と立ちあげられないんじゃないかと思い、暗い深みにはまって時間だけは過ぎていく。そんなとき、立ち帰ることのできる場所を持っていると、回復への道が開かれます。

これは、悲しみに打ちひしがれた人が、神に心を向け悲しさを聞いてもらうことで、夜明けには再び希望をもつことができるという詩です。つらい出来事があっても、立ち上がって前に進まなくてはいけないこともあります。あなたの、つらいときに帰る確かな場所はどこですか。  
(「聖書の品格」いのちのことば社 より引用)

## 教会バザー

4月18日(日)

12時30分～14時30分

美味しい食べ物、ガラス食器

衣類、本、ケーキセット、その他

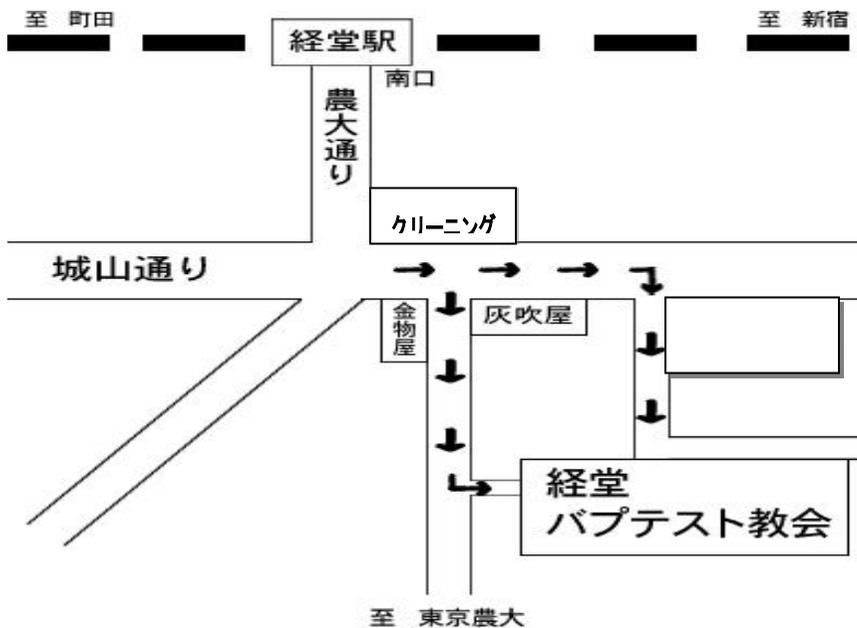


この春もいろいろ準備いたしております。

どなたでもお気軽にいらしてください。お待ちしております。

## 日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後7時30分～8時30分



## 経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。